



# Sekisyo 通信



R6・12・13

NO, 23

文責：校長 酒井

めざす児童像：夢や希望を追い求め、失敗も学びにかえる子



## ☆☆☆ 芸術の秋から芸術の冬へ ☆☆☆

ライオンズの森の池（心学の池）には数日前から日課のように氷が張っています。いつの間にかすっかり冬になりました。

秋に全校生で取り組んだ絵画の制作。個別懇談の際にご覧いただいたとおり、今年も力作が揃いました。作品は校内の選考を経て、地区内の選考へ。その中から優秀と判断された作品は県の選考へと続きます。本校の児童の作品も数多く最終選考へと駒を進めました。どの作品も描きたい思いがはっきりしていて、発達段階に合わせた具材や技法を上手に使い表現したものです。

今月の初めに県の審査(福島県児童画展)結果が届きました。すると、1作品が最高賞の児童画展賞、3作品が準最高賞の特賞に輝き、嬉しい知らせに学校中が沸いています。審査基準の詳細は分かりませんが、改めて見直すと、どの作品も子どもらしい楽しいもので、丁寧に描かれています。「この子は絵が好きなんだろうな～」と、見る人にすぐに伝わる作品です。

国で定められる教科の時数は、指導要領が改訂される度に見直されますが、図画工作や音楽などの芸術分野の教科は減る一方です。石小でも、限られたこの時間を無駄にせずに、子ども達の創作意欲を高めるために様々な工夫をしてきました。図画工作科を自らの研究教科として研鑽を積んできた教員に技法を教わったり、題材をどうすればよいか教員間で話し合ったりしながら…。既成の教材を使用せずに、出来るだけ材料を持ち寄せオリジナルにこだわってきたのはそのためです。その分、保護者の皆様にはご負担をおかけすることも多いのですが、そういった積み重ねが子ども達の創造力を育み、今回の結果に繋がったのではないかと、勝手に分析する校長です。

入賞者と作品名を紹介します。(上から順に)

児童画展賞 1年 迎 和樹 さん

「ぼくのざりがに」

特 賞 3年 宗像 心動 さん

「はじめて球が打てた日」

特 賞 4年 遠藤 琉生 さん

「気づいたらまぼろしのイカにつかまった！」

特 賞 5年 根本 百菜 さん

「気球に乗って世界遺産の旅へ」



入賞者のみなさんおめでとうございます。

※ 入賞作品は書写の部と合わせ、HPで紹介しています。どうぞご覧ください。

## 「家読の時間」、とりあえず8人に聞きました。

水曜日、遂に実施した「家読の時間」（石小版いしかわの時間）、全校集会で発表した際は、ライブ配信でしたが予想通りの反応で、「家読」よりも、「ノー宿題デー」に大きな歓声が起こりました。しかし、今回の取り組みの目的はなんといっても、読書の習慣化を図ること、そして少しでもメディアをコントロールし、家族の時間を確保することにあります。そのために、「ノー宿題」をえさにしたわけではないのですが、今風にいえば差し詰め、「ハイリスク、ハイリターン」ということになります。宿題をなくしてでも読書を習慣づけることには価値があると考えています。

前日には、「やったー、今日は宿題なし！」と雄叫びをあげながら下校する子ども達もいました。さて、肝心の「家読」はどうだったのでしょうか？とても気になったので、翌日登校する子ども達に早速インタビューしました。

全校生に感想を聞きたかったのですが、とりあえず登校途中の8人に！

### ～「家読の時間」やってみてどうでしたか？～

- ゆっくりとした時間を過ごすことができました。
- お父さんがテレビを見ていたから一緒に見ちゃいました。ノーメディアは守れなかった。
- 家には本がないから、借りた本を読みました。
- 2冊も読んだ。
- どうして水曜日なの？ぼくは月曜日の方がいいんだけど…、読書は毎日しているよ。
- お母さんが本を読んでくれました。
- いつもは2時間のゲームを30分でがまんしました。
- 宿題がなかったから、自学をしてきました。ちゃんと本も読んだよ。

何人かの子ども達は口こもっていましたが、ほとんどの子ども達が意識して過ごしたようです。始まったばかりの「家読の時間」ですが、目的は読書習慣にあります。読書が子ども達の人生を豊かにすることは間違いありません。どうかご家庭でのご理解とご協力をお願いします。

間違っても、宿題がなくなったことが「家読」でなく「家毒」とならないよう注視しながら次の手を考えたいと思います。

夏休みに引き続き冬休みも「読書マラソン」を実施します。モトガッコ・自治センターの全面的な協力を得ていますので、合わせてご協力をお願いします。

## 🌸🌸🌸あのはなは、なんだろう？🌸🌸🌸

立哨指導をしていると、いつも十字路に立ってくださっている用務員の瀬谷さんが走っています。目をこらすと、その先には学校とは逆方向に歩き出している黄色い帽子。谷津越坂を歩いて登校するいつもの1年生です。急いで後を追いかけてどうしたのか尋ねると、遠くを指さしながら答えます。

こうちょうせんせい、あれ！あのはなにかな？ボケの花かな？サクラの花かな？

ほんとだね、花が咲いているね。なんの花だろうね？

登校途中、季節外れの桜の花がどうしても気になり逆戻りしたのでしょうか。一緒にその木の下へ。

ほんとだ、花だね。ちょっとだけ折ってあげるから調べてみる？

でも、おっちゃいけないでしょ、かれちゃうんでしょ！

そうだね、でもちょっとだけだからいいでしょ。その代りみんなに教えてあげてね。

担任の先生にも伝えられるかな？

わかった。でも、なんの花かな？ボケかな？サクラかな？サクラは、はるにさくしな…。

枝を片手に元気よく階段を駆け上がりながらも、不思議は膨らむばかりの1年生。その後の教室での担任とのやり取りを想像すると、寒さも和らぐ朝でした。